



太田 房江 大阪府知事講演会



## チャレンジスピリット

— 太田房江大阪府知事、関大で熱く語る —

就職部長 野村幸正

萌ゆるキャンパスは新入生で溢れている。その一郭にある百周年記念会館ホールは緊張ある熱気に包まれていた。縁あって関西大学の学生となり、大阪の地で学んでいる学生たちに、太田房江大阪府知事が熱く語りかけた。四月十八日の午後のことである。

大阪産業再生にかける知事の意気込みには共感させるものがある。会場を埋めつくした五百名に近い学生たちは吸い込まれるように知事の言葉に耳を傾けている。知事の講演は、元通商産業省のキャリア官僚にふさわしく、大阪の現状を時にはグローバル化の中で捉え、また時には関西全体に位置づけ、数値をあげながら冷静に分析してゆく。停滞しているとはいえ、大阪が関西全体の牽引車であるという自負には揺るぎないものがある。

まず、停滞の原因として中枢機能の東京への移転、情報の収集力、ものづくりのコスト、さらにはIT化の遅れ、等々を指摘する。そして、新しいものを生み出す大阪の持つ潜在的な土壌を歴史的、風土的に捉え、新しい産業の育成に向けた具体的な支援策を次々と提案してゆく。また、教育にも言及し、現場に学ぶ実学の重要性を強調する。本学の創設以来の理念である「学の実化」「学理と実際の調和」とも通ずるものがあり、その主張には納得しうるものがあった。

講演は予定の二時間を若干超えたが、終了後直ちに知事と本学学生とのパネルディスカッションに移行し、三名の学生諸君が知事の講演を受けとめながら質問をし、それに再び知事が答えた。時間的制約はあったが、学生たちの質問は的確を射たものであり、知事の講演の趣旨を一層明確にしたように思われる。

そもそも今回の講演の発端は、知事が積極的に押し進めている大阪産業再生プログラムにある。その一環として、近未来に大阪を担う学生たちに大阪・関西経済に対する関心を抱かせ、未来にチャレンジする精神を醸成しようという趣旨のものである。一方、府の提案を受けた本学、なかでも就職部は昨年度よりキャリアアプランニングセミナーを開催し、従来とは違った観点から学生たちの就職活動を支援している。それは、学生に自らの将来のあり方を在学中に考えさせ、またそれを実現するべく情報と場を提供するものである。府の意向と本学のそれが合致したことから、「起業について考えるシリーズ」の第一弾として知事の講演が実現したのであって、大学は政治家の講演なら誰でも、またいつでも受けるというものではない。

今回の講演では産業の再生に絞られたが、産業が活性化すればすべてが解決するわけではない。大阪の遠い未来のあるべき姿を構想しながら、近未来のそれを實現してゆくことが望まれる。このことに関しても、太田知事は日頃から充分にお考えのことであろう、近い将来に学生を交えてふたたび意見を交わしたいものである。

今回の講演が学生たちのチャレンジスピリットを醸成する契機になることを願い、太田房江知事をはじめ、府および本学の関係者に、また三名のパネラーを含めて参加したすべての学生に深く感謝したい。

(文学部教授)

今年も、スツ姿の学生を、キャンパスで目にするように頑張って欲しい。就職の状況は、依然としてきびしいと聞かすが、希望のなかった者、そうでない者、さまざまであろう。就職は景気に左右されやすいもの。就職難も、いまに始まったことではない。思うようにならないことを嘆くより、ときには、視点を変えてみることも必要だ。人生の事は長く、一時の事は短い。人の真価について、先人は、「棺を蓋して事定まる」と喝破したのではないか。他人に依頼することを潔しとせず、一生を費やすに足る事業を自ら起こす気概を、学生諸君にも是非もってほしい。それにくれば、就職の如何など一時の事。悠然と構えていれば、おのずと道は開けよう。とはいえ、やはり就職は、諸君にとって一大問題。人生が一時の事の積み重ねだとすれば、一時の事をゆるがせにすべきではなく、就職はもちろん、何事にも全力であらねばなるまい。ただ、春秋に奮む君たちには、近きに感じ、遠くを忘れることなく、将来をしっかりと見据えてもらいたい。

(北原 聡)

### HEADLINE

2	面	二〇〇二年度入学試験の実施概要
4・5	面	特集 アマゾン探検記 目指せ樹上50mの世界
6	面	リードセンター夏期・後期開講講座案内
8	面	下宿は楽し!

高	の
容	規

平成12年度の総合情報学部生就職状況  
就職情報学部では、平成12年度の総合情報学部生就職状況が、前年度に比べ、就職者数が五十四人増加し、就職率は四十八・一%となった。

平成12年度 総合情報学部生の就職状況  
巨大企業、製造業が増加  
就職活動は、就職情報学部生にとって最大の関心事である。平成12年度、総合情報学部生は、就職者数五十四人、就職率四十八・一%となった。



ウエブスター大学より最高教育栄誉賞  
石川前学長が受賞  
去る五月十日、ウエブスター大学より、本学の石川前学長に、最高教育栄誉賞が授与された。

学術研究部 飛躍  
広告研究部 グランプリ獲得!  
学術研究部は、飛躍した。広告研究部は、今年度のグランプリを獲得した。

夏期語学セミナー 参加者決まる  
夏期語学セミナーの参加者が決まった。今年度は、英語、中国語、韓国語のセミナーが行われる。

秋の入寮者を募集  
7月上旬から願書交付  
学生寮に秋の入寮者を募集する。7月上旬から願書を交付する。

教員採用試験セミナー実施  
本年度教員採用試験セミナーを実施する。6月30日から7月1日まで行う。

重点領域研究助成 研究課題を募集  
重点領域研究助成の研究課題を募集する。7月2日から7月31日まで受け付ける。

教育後援会 総会を開催  
教育後援会の総会を開催する。6月23日(土)～24日(日)に開催される。

迷惑駐車・駐輪の根絶のために 自動車・モーターバイク 通学は全面禁止!  
迷惑駐車・駐輪の根絶のために、自動車・モーターバイクの通学を全面禁止にする。

## 2002年度入学試験の実施概要決まる

### 日程(第1部)

学部	試験日	試験地
工学部	2月1日(金)	大阪 東京・金沢・浜松・名古屋・和歌山・姫路・岡山・広島・徳島・高松・松山・小倉・福岡
文学部	2月2日(土)	札幌 仙台 東京 新潟 金沢 浜松 名古屋 和歌山 姫路 松江 岡山 広島 徳島 高松 松山 小倉 福岡 鹿児島
商学部	2月4日(月)	大阪 東京・金沢・浜松・名古屋・和歌山・姫路・岡山・広島・徳島・高松・松山・小倉・福岡
総合情報学部	2月5日(火)	大阪 東京・金沢・浜松・名古屋・和歌山・姫路・岡山・広島・徳島・高松・松山・小倉・福岡
法学部	2月6日(水)	大阪 東京・金沢・浜松・名古屋・和歌山・姫路・岡山・広島・徳島・高松・松山・小倉・福岡
経済学部	2月7日(木)	大阪 東京・金沢・浜松・名古屋・和歌山・姫路・岡山・広島・徳島・高松・松山・小倉・福岡
社会学部	2月8日(金)	大阪 東京・金沢・浜松・名古屋・和歌山・姫路・岡山・広島・徳島・高松・松山・小倉・福岡

### 日程(第1部・第2部)

学部	試験日	試験地
法・文・経済・商・社会学部	2月3日(日)	大阪 札幌 仙台 東京 新潟 金沢 浜松 名古屋 和歌山 姫路 松江 岡山 広島 徳島 高松 松山 小倉 福岡 鹿児島

### 日程(第1部)

学部	試験日	試験地
工学部	2月2日(土)	大阪 札幌 仙台 東京 新潟 金沢 浜松 名古屋 和歌山 姫路 松江 岡山 広島 徳島 高松 松山 小倉 福岡 鹿児島

### 後期(第2部)日程

学部	試験日	試験地
文・経済・工学部	3月1日(金)	大阪 東京・金沢・名古屋・和歌山・姫路・岡山・広島・高松・福岡
法・文・商・社会学部	3月2日(土)	大阪 東京・金沢・名古屋・和歌山・姫路・岡山・広島・高松・福岡
法・文・経済・商・社会学部	3月1日(金)	大阪

※A・S・C：後期(B)日程を利用して、同一学部、異なる学部を併願することができます。  
※社会学部(第2部)では社会人・勤労学生を対象に、4年コースとは別に6年コースを設置しています。

夏季スポーツ教室  
6月18日から受付  
ヨット  
ヨット部は、6月18日から受付を開始する。



ヨット部  
ヨット部は、6月18日から受付を開始する。

学生諸団体の行事予定  
ヨット部  
ヨット部は、6月18日から受付を開始する。

第24回 総合関関戦 開催迫る!!  
6月21～23日  
総合関関戦は、6月21～23日に開催される。

和南西里(社)・加藤史子(社)・小島孝(社)など  
和南西里(社)・加藤史子(社)・小島孝(社)など



和南西里(社)の活動  
和南西里(社)は、剣道部として活動している。

和南西里(社)・加藤史子(社)など  
和南西里(社)・加藤史子(社)など

和南西里(社)の活動  
和南西里(社)は、剣道部として活動している。

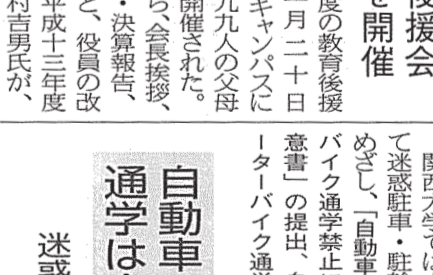
### トピックス

近く学則等の改正に関する  
交付内定  
交付内定に関する情報。

### 迷惑駐車・駐輪の根絶のために

迷惑駐車・駐輪の根絶のために  
迷惑駐車・駐輪の根絶のために、自動車・モーターバイクの通学を全面禁止にする。

和南西里(社)の活動  
和南西里(社)は、剣道部として活動している。



和南西里(社)の活動  
和南西里(社)は、剣道部として活動している。





関大通信 第291号

平成13年(2001年)6月15日  
大阪府吹田市山手町3-3-35  
http://www.kansai-u.ac.jp/



後列左から2人目が  
当時の宇田川先生

ボロ下宿ノ思ヒ出

宇田川幸則

事態である。「何とどこにちかまったのか」。頬を伝わる熱いものもすぐに凍てつきそうな状況に、抱いた大志も萎えんばかりであった。

このような状況を北海道出身者(道民)の同学に話したところ、そりゃ当たり前だ一笑に付された。1階は地面の寒さがダイレクトに伝わってくるので、マンションでも寒くて仕方ないのに、木造でしかも北向き、道民なら選ばないとのこと(そういえば、住人は全員道外出身者だった)。しかも、ストーブを焚いたままにして寝るのが道民の習慣らしい。くわえて、北海道では冷蔵庫は物を冷やすためにあるのではなく、物を凍らせないためにあるという「教え」も頂戴した(ちなみに、私は台所に放置していた卵を凍らしたことがある)。いやはや、これは聞きしに勝る寒さだ。しかし、生来の楽道家である私は、幸いぬく(暖かいの北海道弁)なる時期だから何とかなるっしょと気を取り直し、いっそのこと、この寒さを楽しんでやろうと思うことにした。

その後、徒歩2分のところにある銭湯から部屋に戻ったところ、髪の毛が凍っていたり、玄関に雪が積もりすぎて出入り不能となったり、2階の住人が水落し(水道管の凍結を防ぐためにバルブを開いて、管内の水を抜くこと)を忘れたため、部屋が水浸しになったりと、散々な目に遭ったが、北の大地のボロ下宿ならではの経験として、今では痛快な思い出となっている。

(法学部専任講師)

気ままな生活

下宿は楽し!



長びく不況のせいか、片道2時間以上もかけて通学している学生もけっこう多い。事情が許せば彼・彼女たちも、ほんとは家から離れて生活してみたいにちがいない。

家族と離れてさみしいけれども、なんとなく「うれしかった」下宿生活。ゼミ生やサークルの仲間の溜り場になって、いつもワイワイしている下宿生。しっかりと自炊生活を身につけて、自立を目指す下宿生。研究室に泊り込み、ほとんど帰らない下宿生。CDやビデオに囲まれて、趣味を楽しむ下宿生。昔も同じなのだろうか。

そんな関大生の下宿事情をのぞいてみよう。



森本 志乃

一人暮らしを始めて

私は、下宿を始めて今年で2年目になります。昨年1年間は、京都に住む姉の家から電車通学をしました。関大に通いながら古都京都の魅力も知ることができ、大変貴重な1年だったと思います。この春から本格的に一人暮らしを始め、今はその快適さを満喫しています。

下宿の良い所は、やはり時間を自由に使えること。部活やアルバイトなどで帰りが遅くなることが多いのですが、誰にも干渉されないのが気楽ですね。その分自分の行動には責任を持たなければならないので、自己管理能力も付くと思います。限られた仕送りで生活していく中で、金銭感覚が養われるし、親がやってくれていたことも全て自分の仕事なので、自然と自立していくのではないのでしょうか。

近所に下宿している友人がたくさんいるので、皆で集まって遊ぶこともよくあります。そこで、たわいもない話



誰にも干渉されず気楽です

をしたり、相談事をし合ったり、料理をして一緒に食べたりする時間がすごく楽しいです。最近は生活に余裕ができ、自炊をするようになりました。友人達からも色々教えてもらって、レパートリーを増やしたいですね。一人暮らしは快適と言っても、やはり家族が恋しくなるもの。そんな時に近くにいるくれる友人達というのは、とても心強い存在です。

現在、私が住んでいる部屋は7.3畳のワンルームマンションです。物件を選ぶ時に、日当たりの良さを第一条件に考えていて、それを十分に満たしていたのでこの部屋に決めました。学校から徒歩5分と、とても便利です。最寄駅から遠いというのが、やや難点ですが、今は専ら自転車を愛用しているので問題はありません。

良い環境と友人達に恵まれて、快適な下宿生活を送られているなど感じています。また、離れてみて初めて家族の温かさが分かりました。いつもわがままばかりの娘なので、少しずつでも親孝行をしていくことが、今後の私の課題かなと思っています。

(商学部2年次生)

木造モルタル・築19年・1階北向き・四畳半×六畳・便所付風呂無・家賃2万円…1988年4月4日、札幌市北区に今もある(ということは、現在築32年!)このような部屋で、私は人生初の一人暮らしのスタートを切った。当時の私には「学生はボロ下宿に住むべし」というこだわりがあったことにくわえて、大学から非常に近く、しかも家賃が他の大都市に比して格段に安い札幌でもとくにリーズナブルであることに惹かれて選んだ下宿であった。しかし、この住環境が、北の大地で生活してゆくことの過酷さを私に教えてくれることになる。

試練は早くも入居初日に訪れた。とにかく寒い!玄関は二重ドア、窓も三重窓という寒さ対策が施されていたのだが、室内で引越し荷物の到着を待つ間、当初冷たく感じるだけであったつま先が、次第に痺れてくるのではないかと不安が頭をよぎり始めた頃ようやく荷物が到着し、何をさておきストーブの設置(煙突付の本格的なもの)に取りかかってもらった。火を入れるやいなや、部屋はあたかも南国の如き暖かさとなり、「フランダースの犬」のネロとパトラッシュも、これさえあればあのような不幸も避けられたのに、と思わずにはいられなかった。

その夜、安全を期すためにストーブの火を落とし、就寝したところ、顔が引きつる感覚に襲われて夜中に目が覚めた。そう、あまりの寒さで顔面の皮膚が硬直してしまったのである。伊勢は安濃津に発し、木曾川を越えて生活をしたことがない者にとって、これは事前の覚悟を越えた

野村幸正(のむらゆきまさ)教授 専攻は記憶の研究を核にした認知心理学・認知科学である。一九八七年に一年間インドのプーナ大学でヒンドウの認識論を学び、現在ではインドロジックに関心をもち、「知の体得」、「関係の認識」、「臨床認知科学」個人的知識を超えて多数の著書、論文がある。現在、就職部長。



今月の表紙

人はなぜ二本足で歩けるのか。最先端のハイテクでも、ロボットにスムーズな二足歩行を実現するのは、意外と難しいのだそう。これからは、どこかきつた。確かに、どこかきつた。不安定な前進を阻害する。むしろ、あえて倒れようとするから、その瞬間、足が高等動物たるゆえんだ。(園田 寿)



編集後記

を受け止め全体を支える。この繰り返しのうち、人は歩いているという。ロボットにはそれが難しいらしく、テレビで見ただけの最先端のロボットも、全体体の重心を安定的に保ち、いわば平行移動のような感じで歩いている。確かに、どこかきつた。不安定な前進を阻害する。むしろ、あえて倒れようとするから、その瞬間、足が高等動物たるゆえんだ。(園田 寿)

「ただいま」…返事のない一人暮らしも4年目になりました。一人という寂しさや全て自分でやらなければならない面倒臭さも慣れたもので、昔の事を思い出すと「オレもたくましくなったものだ!!」と思える程です。

「自分のしたい事ができる、良いも悪いも自分次第」これこそ一人暮らしの醍醐味だと思います。いろんな遊びの中で気に入っているのが、夜中友達と二人での「フラリ原付二人旅!」です。これは、二人で突然一人暮らしの友達の家へ押しかけるもので、お腹がすいたからごはんを作ってもらいに行ったり、最近会っていないだけで会いに行ったりします(大阪はもちろん京都、兵庫、奈良しかも午後10時から午前7時くらい)。

自分流の一人暮らし

岡田 健作



自宅での生活だと、「こんな時間にどこ行くの!!」とか、「こんな時間に来るなんて非常識だわ(怒)」…などと小言の一つ二つ聞こえてきそうな事も誰に気を使うでもなくノビノビできるのです。

また、昔から一人でボーッとすることが好きな僕にとって、下宿に帰れば誰にも干渉される事のない気楽な今の生活は喜ばしいばかりです。

最後に、今僕は十三に住んでいますが、部屋を決めたポイントは、立ち寄った不動産屋の空部屋の中で一番高い階のあるマンションでした。ただ単に「高い階に住みたい」という子供のような思い付きで決めました。14階建てのマンションの11階に住んでいるので、景色はとても良いです。しかも、クラブであちこちに行かなければならない時も、阪急の駅が近いので楽チンです。どこかへ行くたびに交通の便が良く本当に良かったと思います。

(工学部4年次生)

望みどおり高い階での暮らしは最高

